

豊田市低炭素社会システム推進協議会 改組に係る趣意書

豊田市は、自動車産業を中心に、大企業を中小企業が支える形で発展してきた一方で、豊かな自然環境を生かし、農林業においても県内有数の規模を有している。この強みを生かし、地域活性化総合特区や次世代エネルギー・社会システム実証など、特に交通・エネルギー分野を中心に、民産金学官の連携による先進技術実証を展開してきたが、国内でも類を見ないスピードで進展する高齢化や、それに伴う交通事故の増加、さらには世界的な「第4次産業革命」の進展など、従来型の取組では立ち行かない情勢を迎えている。

これらの課題を克服し、豊田市が将来にわたって持続可能な都市であり続けるためには、多様な主体の「つながり」を強化するとともに、複数の資源や技術をI o T (Internet of Things/モノのインターネット) でつなぎ、AI (人工知能) 等を活用して効率よく解決できる社会システムの構築と、新たなスマートシティの実現も必要である。

そこで、本協議会を「豊田市つながる社会 実証推進協議会」として改組し、先進技術の知見を有するリーディング企業や大学、独自の技術力・販路を有する地元企業、市民との接点としての実績と豊富な各種データを有する行政、さらには、事業化に向けた様々な支援を行う金融機関や地域商工団体等がフラットな立場で連携できる体制を強化、市民ニーズに合致した社会課題解決システムに資する先進技術開発及び実証に挑戦する。

このプロセスを通じて、地域経済の活性化と、市民生活の安全・安心の向上を実現しながら、超高齢社会においても持続的に成長可能な「とよた版地方創生モデル」を確立し、当該モデルを国内外の都市へと積極的に横展開することにより、我が国の地方創生と経済成長の一翼を担っていくことを、本協議会改組にあたっての趣意とする。

平成28年10月12日

豊田市低炭素社会システム推進協議会改め

豊田市つながる社会 実証推進協議会